2019年度　苫小牧市こども国際交流事業

こども国際交流クラブ

活動報告集

＊学習活動

2019年5月21日（火）～
2020年1月28日（火）

＊カンボジア訪問

2019年7月26日（金）～
7月31日（水）

特定非営利活動法人ワーカーズコープ　苫小牧まちづくり地域福祉事業所

▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪ 目　　次 ▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪

クラブ員名簿・事業概要　・・・・・・・・・・・・・・・・　２

ワーカーズコープよりあいさつ　・・・・・・・・・・・・・　３

事前事後学習会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４～６

カンボジア訪問日程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

カンボジア訪問の様子　・・・・・・・・・・・・・・・　８～１３

活動報告会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４～１５

クラブ員感想文　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６～２６

クラブ員名簿

氏名	学校名学年	備考
稲場　未維	苫小牧南高等学校　２年	リーダー
木戸　凜太朗	苫小牧市立青翔中学校　３年	サブリーダー
坂本　愛緒	登別明日中等教育学校　２年	
佐々木　ひなた	苫小牧南高等学校　１年	
佐藤　伶音	登別明日中等教育学校　３年	
高橋　風汰	登別明日中等教育学校　２年	
田鎖　彩也夏	苫小牧南高等学校　３年	
長橋　柚奈	苫小牧市立光洋中学校　２年	
二瓶　宝來	苫小牧市立緑陵中学校　２年	
三浦　太陽	苫小牧市立緑陵中学校　１年	
若松　遼	立命館慶祥中学校　３年	

事務局

特定非営利活動法人ワーカーズコープ　　堀川　紅美
〃　　鳥越　智子
RCE 北海道道央圏協議会　　事務局長　　有坂　美紀

事業概要

事業目的

○　開発途上国への訪問やそれに伴う学習を行い、子どもたちが自ら考え、異文化交流の大切さに気づくことによる成長を促し、国際的視野をもった苫小牧のまちづくりを担う人材を育成する。

事業概要

○　国連が2015年に採択した「ＳＤＧｓ(持続可能な開発目標)」を軸として、カンボジアへの訪問や事前・事後学習を通し、異文化や開発途上国への支援、世界と自分たちの暮らしとの繋がりについて学ぶ。加えて、「活動報告会～SDGｓを通して僕らが学んだ事～」を開催し、本事業に伴う活動や国際交流に関わる経験を苫小牧市民へと発信する。

2019 年度こども国際交流事業を終えて

特定非営利活動法人ワーカーズコープ　　堀川　紅美

まずは、この事業を長きに渡り継続している苫小牧市に一市民として誇りを持つと同時に、様々なご配慮をいただいた関係機関の皆様に心からの感謝を申し上げます。

今年度から本事業の企画運営を民間も参画できるようになった事をきっかけに、学習会の回数を増やし、そこに 2015 年に国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」の学びを取り入れました。
地球の危機に直面している近年、こどもたちが SDGs を学ぶ事は、私たち大人にとっても大きな意味を持ちました。

新たな取り組みの第一期生となったのは中学 1 年生から高校 3 年生の 11 名。
当初のクラブ員達は、私たちの「どう思う？」の問いに対し、正しい答え、正解を答えようとしていました。しかし、クラブ員達は学びを深めるに連れ、沢山のことが絡みあい、立場によって様々な考え方のある社会の現状と、世界のより良い未来の創造に対し、これが正解！ということはなく、事実を知り、1 人ひとりが自ら考え、対話し、さらに行動していく事が、より良い未来のために大切なことだと、早い段階で知りました。

カンボジアという国の訪問は､クラブ員にとってそれらを確信させた非常に大きな経験となったようです。平和、格差、発展、幸せ...
発展途上にあるカンボジアの人たちの輝く笑顔に触れ交流した事で､日本の常識が世界のスタンダードではないことに気づきました。そして、自分たちの暮らしをあらためて見つめ直すきっかけになりました。

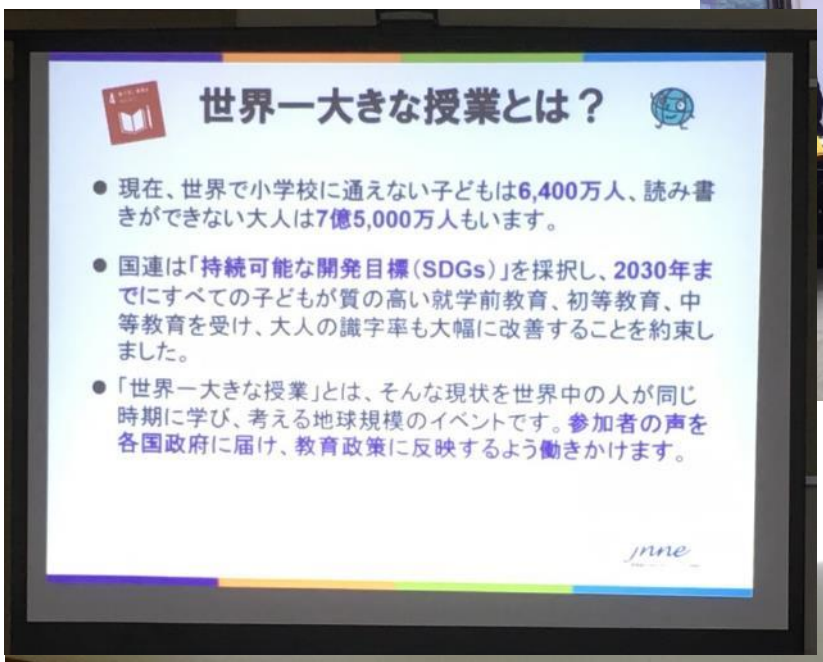
それら、こどもたちが感じた事を発信する場として、報告会を持てたことは、私たちの暮らす街苫小牧において、世代を超えた対話への一歩となったと思います。

SDGs が今なぜ必要なのか、今、地球で何が起こっているのか、そして、私たちの暮らしとそれらが、どうつながっているのかを、丁寧に丁寧に伝えてくださった講師の方々に敬意を表します。
そして、保護者の方々には、長期間相当なご苦労をおかけしたと存じます。様々なご指摘を覚悟した最後の解散式でしたが、我々の想像とは全く逆で、「確かに長かったけれど、この学習会は本当に良い取り組みだったと思う。運営者は大変だと思うが次年度以降もぜひ続けてほしい」「長い期間、これだけの学習会を本当にお疲れ様でした。こどもがこんな事を考えていたんだと、驚きも多かった。感謝します。」という言葉をいただき感動を覚えました。
この新たな取り組みに、真のご理解をいただき、9 ヶ月に渡る長い期間、こどもたちを学習会に送り出していただいた保護者の皆さまへは尊敬と感謝につきます。本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

そして最後に「未来への希望」を私たちに与えてくれたクラブ員みんなに、深く深く感謝します。
一緒に学んだからこそ得られたこの「希望」。あらためてこどもの力ははかり知れず大きなものだと感じているところです。
この報告集だけでは到底表しきれないこどもたちの｢未来への想い｣を学習会の中で沢山聴いてきました。こどもたちがこの経験を将来にわたり活かしきれるよう、世代を超えて共に学び、共に考え対話する機会を増やし続けることの意義を感じています。その事が、より良い苫小牧の街づくりにつながっていく事を願い、挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

《学習会の様子》

SAYAKA
YUZUNA
TAKARA


世界一大きな授業とは？
● 現在、世界で小学校に通えない子どもは6,400万人、読み書きができない大人は7億5,000万人もいます。
● 国連は「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択し、2030年までにすべての子どもが質の高い就学前教育、初等教育、中等教育を受け、大人の識字率も大幅に改善することを約束しました。
● 「世界一大きな授業」とは、そんな現状を世界中の人が同じ時期に学び、考える地球規模のイベントです。参加者の声を各国政府に届け、教育政策に反映するよう働きかけます。
jnne

《学習会の内容》

	内容	講師（敬称略）
第１回 （5/21）	「結成式」 「説明会」	
第２回 （5/28）	「地球人になろう」 「世界に目を向けて視野を広げよう。日本と違うから『変』ではなく、違う文化や風習を知って、どんどん吸収してほしい。日本にいると気づかない事も、海外に行くとたくさん気づくはず。それを大事にしてほしい。」とのメッセージ	JICA 協力隊 OB 齊藤　郁弥
第３回 （6/4）	「SDGｓ」について 地球の誕生からの変遷を時間軸も交えながら、今の地球の危機的状況や、年々ひどくなる経済的な格差などの説明。「多様な環境と生き物を破壊せず、もっと豊かにし、多様な人々の価値観を尊重し共存できる社会」を目標に、私たちの生活スタイルを見直すために「SDGｓ」が必要	RCE 北海道事務局長 有坂　美紀
第４回 （6/11）	「世界で一番大きな授業」 ・フェアトレードについて ・世界の教育の現状 ・教育の大切さ→とても難しい伝言ゲームで「字が読めない」事の大変さを実感	NGO ネットワーク協議会会長 立石　喜裕
第５回 （6/18）	「世界で一番大きな授業」の続き ・ノーベル平和賞を受賞した、マララ・ユスフザイさんの国連サミットでのスピーチ動画を見る ・世界各地での教育に関する 12 の事例について話し合う ・「もっと沢山の人に世界の子どもたちが置かれているこの状況を知らせて下さい」など外務大臣にあてた提言を書いた	有坂　美紀
第６回 （6/25）	「カンボジアの歴史と現在」 ・ポルポト政権について　　・寺院や僧侶の活動の様子 ・CHA（障害のある女性たちが小物などを手作りしている団体）→実際に訪れて、車いすを届けた ・中国企業による縫製工場の様子	齊藤　郁弥
第７回 （7/2）	カンボジアの歴史・国歌・国旗・食べ物やお祭りの様子など、またクメール語の文字や挨拶の時に合わせる手の位置など、説明してもらった。 発音がとても難しいクメール語の挨拶を練習	有坂美紀 ソタビ・チャイ（カンボジア人留学生）
第８回 （7/9）	・市長表敬の練習 ・「このクラブにリーダーが必要か」「現地の小学校で何をするか」の話し合い	
第９回 （7/16）	・市長表敬（出発式・市役所にて） ・「小学校で何をするのか」さらに具体的に話し合う	

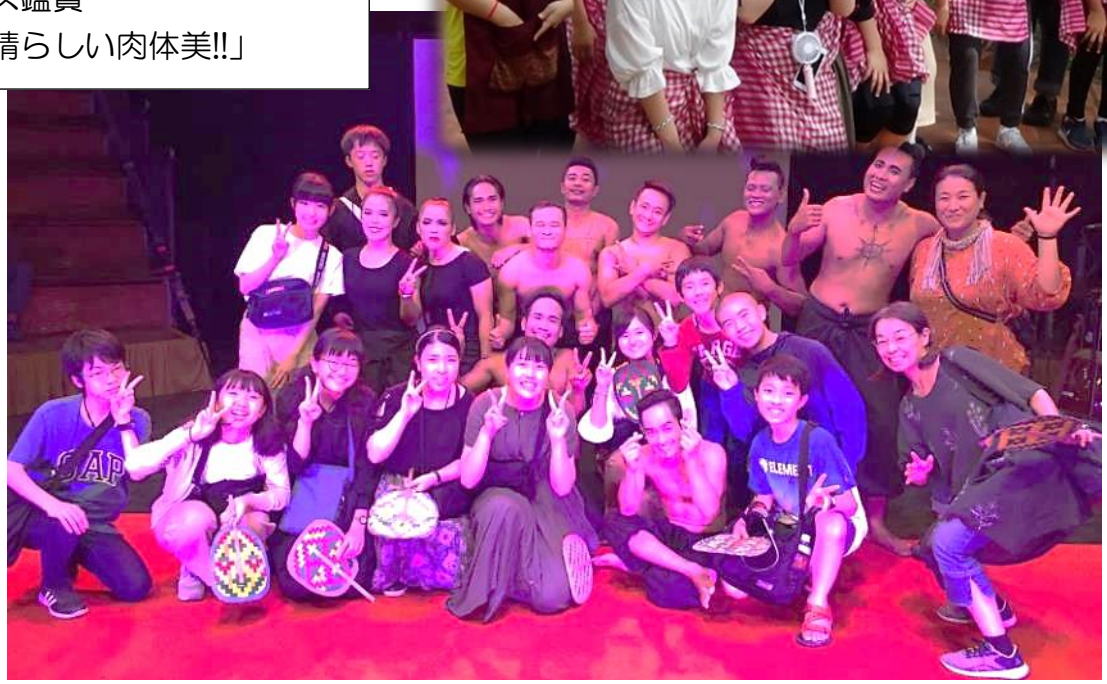
	内容	講師（敬称略）
第 10 回 （7/23）	・クイズの内容、折り紙で何を作るのか決定 ・旅行についての疑問など最終確認	
7/26～31	カンボジア訪問	
第 11 回 （8/6）	「心を動かされた事」「他人に伝えたい事」などカンボジア訪問の感想	
第 12 回 （8/20）	「どんな市長報告会にするか」を話し合う	
第 13 回 （8/27）	市長報告会の準備	
8/30	市長報告会（市役所にて）	
第 14 回 （9/10）	ワークショップ「カンボジアで訪問した場所の良かった点、気になった点」	有坂　美紀
第 15 回 （9/24）	世界で起こっている事 ・「平和」について、今年の長崎の平和宣言を基に考える ・国内外の若者の行動について	
第 16 回 （10/8）	・SDGｓのまとめ	有坂　美紀
第 17 回 （10/29）	・「フェアトレード」について	市議会議員 橋本　智子
第 18 回 （11/5）	・カンボジアに行って気づいた日本の事 ・「普通」って何だろう？	
第 19 回 （11/12）	・夜間中学校に関するDVD 鑑賞 ・報告会の準備「私たちが伝えたい事」	
第 20 回 （11/19）	・報告会の準備	
11/24	こども国際交流クラブ活動報告会（市民活動センター１階多目的ホール）	
第 21 回 （12/3）	・報告会の反省	
第 22 回 （12/17）	・宇田市議が議会で、報告会の事を取り上げ質問している動画を見て、 その感想を出し合う	
第 23 回 （1/28）	・保護者を含めた意見交換会及び解散式	

《カンボジア訪問日程》

	月日	曜日	発着地・滞在地	時間	交通	摘要
1	7/26	金	発：苫小牧市役所	7:45	専用車	
			着：新千歳空港	8:30		
			発：新千歳空港	10:30	航空機	※機内食１回
					TG671	
			着：バンコク	15:30		
			発：バンコク	19:10	航空機	
					WE590	
			着：カンボジア	20:15	専用車	
			（シェムリアップ）	21:30		夕食：レストランにて
			ホテル着	23:00		（シェムリアップ泊）
2	7/27	土	(シェムリアップ)	7:00		朝食：ホテルにて
			ホテル発	8:00	専用車	●カンボジアノゴハンの交流プログラム（昼食込み）
						内容：現地の学生と共に課題をクリアーしながら、マーケットで一緒に買い物をして、昼食を作って会食。
				18:00		夕食：レストランにて
				20:00		●サーカス鑑賞
			ヴィラ着	21:30		（シェムリアップ泊）
3	7/28	日	(シェムリアップ)ヴィラ発	5:30	専用車	●「アンコール・ワット見学」（朝日鑑賞から朝食込）
						内容：世界遺産のアンコール・ワット見学
				12:00		昼食：レストランにて
				13:00		●「オールドマーケット散策」（お土産購入）
			ヴィラ着	17:30		
				18:00		夕食：ヴィラでバーベキュー　（夕食後、次の日の準備）　（シェムリアップ泊）
4	7/29	月	(シェムリアップ)	6:00		朝食：ヴィラにて
			ヴィラ発	7:30	専用車	
				8:00		●小学校での日本語教師アシスタントと子ども達との交流
						内容：現地の小学校で日本語を教えている日本人女性のアシスタントとして授業の手伝いをした後、休み時間には子ども達と交流。
				12:00		昼食：レストランにて
				13:00		●「焼き物工房（ロ・ユーユー）と織物工房（クローマー・ユーユー）見学」
						内容：工房見学と現地女性と織物体験
				17:00		夕食：レストランにて
			発:シェムリアップ	19:10	航空機	
					K6116	
			着：プノンペン	20:00	専用車	
			ホテル着	20:30		（プノンペン泊）
5	7/30	火	(プノンペン)	8:00		朝食：ホテルにて
			ホテル発	9:00	専用車	●「JICA 事務所訪問」
						●「トゥール・スレン博物館見学」
				12:00		昼食：レストランにて
				13:00		●「キリングフィールド見学」
						●「CHA（カンボジアハンディクラフトアソシエイション」
				18:00		夕食：レストランにて
			発：プノンペン	21:15	航空機	
					TG585	
			着：バンコク	22:20	航空機	
			発：バンコク	23:45	TG670	※機内食１回　（機内泊）
6	7/31	水	着：新千歳空港	8:30		
			発：新千歳空港	9:30	専用車	
			着：苫小牧市役所	10:15		お疲れ様でした

《カンボジア訪問の様子》

7/27
＊カンボジアノゴハン
　現地の学生と一緒に昼食作り
　　「鶏と目が合っちゃった…」
＊サーカス鑑賞
　　「素晴らしい肉体美!!」



7/28
＊世界遺産アンコールワットと
　アンコールトム見学
　　「遺跡は凄かったけれど、
　　とにかく暑い・あつい・
　　アツイ～」

7/29
＊小学校訪問
「言葉が通じなくて、初めは大変だったけれど、子どもたちの笑顔に負けないくらいの笑顔で頑張って、楽しかった!!」

7/29
　＊焼き物と織物の工房訪問
　　「どちらも日本人が始めた工房で、
　　地元の人たちの貴重な働く場所」

7/30
プノンペン市内の各所訪問

＊JICA 現地事務所
日本の支援の内容など学習

＊CHA（カンボジアハンディクラフトアソシエイション）
「子供用の車いすを届けたよ」

＊トゥールスレン博物館
＊キリングフィールド
「どちらも目を背けたくなる程の悲惨なもの。でも、だからこそ、学ぶべき事がたくさんあった」

《苫小牧市こども国際交流クラブ活動報告会　(2019 年 11 月 24 日実施)》

＊　タイムスケジュール　＊

13：00～13：05　　開会の挨拶

13：05～13：10　　市長挨拶

13：10～13：45　　講演「SDGｓ(持続可能な開発目標)ってなに？」
有坂美紀(RCE 北海道道央圏協議会事務局長)

13：50～14：35　　活動報告「カンボジア訪問」
苫小牧市こども国際交流クラブ員

14：35～14：45　　休憩

14：45～15：10　　活動報告「なまら食堂等」　学生ワーカーズ（札幌）

15：15～15：50　　学生座談会「未来にむけた私たちの想い」
苫小牧市こども国際交流クラブ員 / 学生ワーカーズ（札幌）
コメンテーター：有坂美紀(RCE 北海道道央圏協議会事務局長)
進行：平本哲男(ワーカーズコープ北海道事業本部本部長)

15：50～16：00　　閉会の挨拶

＊　カンボジア訪問の報告テーマとメンバー　＊

1　「カンボジアの歴史と現在」

立命館慶祥中学校　3 年　　若松　遼
北海道登別明日中等教育学校　2 年　　高橋　風汰
苫小牧市立緑陵中学校　1 年　　三浦　太陽

2　「食事と私たちの生活の問題」

北海道苫小牧南高等学校　3 年　　田鎖　彩也夏
〃　1 年　　佐々木　ひなた

3　「当たり前じゃない事」

北海道苫小牧南高等学校　2 年　　稲葉　未維
北海道登別明日中等教育学校　2 年　　坂本　愛緒
苫小牧市立光洋中学校　2 年　　長橋　柚奈
苫小牧市立緑陵中学校　2 年　　二瓶　宝來

4　「カンボジアの教育の現状」

北海道登別明日中等教育学校　3 年　　佐藤　伶音
苫小牧市立青翔中学校　3 年　　木戸　凜太朗

＊ 札幌・学生ワーカーズ　＊

「なまら食堂　紹介」

北星学園女子高等学校　2 年　　高橋　蓮実
〃　2 年　　若狭　ひより

『活動報告会の様子』

11 月 24 日（日）苫小牧市民活動センター１階多目的ホールにて開催。
クラブ員の家族を中心に 60 名近くの来場者があり、市内の企業「萌運輸」さんのご協力を頂き、現地の小物なども販売。発表後の質疑応答では、クラブ員の保護者からなかなか厳しい質問があり、親子対決という展開になった。
来場者アンケートでは「感受性豊かな子たちの報告会はとても心に響きました」「良い事が自然と出来る社会にしないといけないと思いました」「大変希望を感じさせる報告会でした。学生たちの成長が楽しみです」など好意的なものが多かった。

「生きるということ」

苫小牧南高等学校　２年　稲場　未維

私は、この事業に参加して自分の見ていた世界がどれほど小さいか自分で実感することができた。

参加することになったきっかけは、些細な出来事からだった。私は幼少期から英会話教室に通っており、海外へ行くことにずっと憧れていた。しかし行く機会や時間がなかなか作れず結局高校生の間も行けないかもしれないと諦めかけていた。そんな時に母と図書館へ行った際、事業のポスターを見てチャンスだと思って応募した。そんな小さなきっかけだった。

「カンボジア」それはどんな国か、どこにある国なのか。テレビで聞いたことがあったが全く自分がカンボジアの地に足をつけるなんて想像もできなかった。現地に行く前に何度も勉強会を通してカンボジアの状況や、世界各国の問題、私が知らなかったことを学んだ。でも、ある時自分がちっぽけな人間で、何もできていなくて、何のために生きるのか分からなくなった。

それは、世界一大きな授業という授業を受けた時からだった。自分は日本にいて、ただ何も目的もなくだらだらと過ごしているのに、同じ地球上にいる同年代の子たちは、自分が生きるために必死に努力して、自分が行きたくないと思っている学校も行きたくても行けない、先生が足りていない。そんな現状を知り、自分がどれほど何もしていないか、よくわかった。

そんな気持ちを抱えたまま、現地に行く日はあっという間に訪れた。

不安と緊張で眠れるか心配だった。カンボジアは気温も暖かく、周囲の人々も暖かく、暖かい国だった。私は、自分が悔しくなった。今まで感じていた「カンボジアは可哀想な国」そんなことを考えていた私が馬鹿だった。子供たちも働いていたり、靴を履いていない子供もいた。でもみんな生命力で輝いていたように見えた。全ては生きるため。私は生きるために何を努力しているのか。生きる理由もなくただ無気力に生きている方が可哀想に思えた。

生きるとは何だろう。自分は考えたこともない大きな意味に直面した気がする。これから何十年、何百年と続いていく生命が求めるのは、何か。自分が生きるためにするべきことは何か。どうせ最後は死んでしまうのにどうして生きるのか。ほんのちいさなきっかけで私はここまで考えた。

今世界では、いろんな問題が山のようにある。これから生きる私たちに、地球が生き続けるためには手を取り合うこと、理解することが重要だと私は思う。押し付けるのではなく、お互いに理解する。

これが小さなきっかけになり、大きく世界を変えていけるのではないだろうか。

「今の日本に必要なこと」

苫小牧市立青翔中学校　３年　木戸　凜太朗

　僕はこの苫小牧こども国際交流クラブの活動を通してこれからの未来のためにすべきことをたくさん学びました。

　SDGｓという世界共通の持続可能な社会を目指していくための 17 の目標についてやカンボジアの歴史、人と人とを繋ぐコミュニケーションのあり方など・・・。
　その中でも特に僕が最も変えていくべきと感じたのは、多くの日本人の政治や世界に対する興味のなさや意識の低さです。

　僕がこの活動で学んだ世界のために「すべきこと」は特別なことではありません。世界中で当たり前のように取り組むべき事ばかりです。ですが皆さんは、私たちは動こうとはしません。

　世界には飢餓で苦しむ人がいます。
　世界には学校に通えず子供のうちから過酷な労働をしている人がいます。
　世界中の資源には限りがあります。

　僕は今まで知っていても自分に直接関係ないと、当たり前のようにものをすぐに捨て、食べ物を残し、人生がつまらないのは環境のせいだと嘆いていました。

　なぜ僕は今までこう思ってきていたのか？それは詳しく知らないからです。もっといえば詳しく知ることができる「機会」がないからだと思います。

　それではどうすれば多くの人にもっと世界中の問題を知る機会を作れるのか？僕には見当もつきません。でもきっと変わらなければ世界中の問題は解決しません。

「分からない」はやらなくていい理由にはなりません。僕はこれからどうしていくべきなのかをもっと考えて、完璧じゃなくても答えを出したいと思います。

「SDGｓの達成に向けて」

北海道登別明日中等教育学校２年　坂本　愛緒

持続可能な社会。この言葉を私の通う学校で見かけてから、私の SDGｓへの関心が高まった。みなさんは SDGｓという言葉を知っているだろうか。これは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で 2015 年 9 月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標なのである。具体的に、SDGｓは「17 の目標」と「169 のターゲット」で構成されている。これらは貧困や飢餓といった問題から、働きがいや経済成長、気候変動に至るまで、21 世紀の世界が抱える課題を挙げていることが分かる。そこで私は、SDGｓの達成に向けて何か貢献したいと考えた。

カンボジアからの帰国後、メンバーとの事後学習を重ね、子どもの貧困について着目した。同じ年の子が通う学校のそばで朝からマーケットで働いている子がいる。また、小さい物乞いや悲しげな表情でポストカードを売る子もいる。なぜ学校に通わず朝から大人と同じく働いているのか。その答えは家計を助けるためで、これが現状なのだ。私の住む日本では到底考えられない。私はそんな不平等な現状を今すぐにでも変えるべきだと考える。そこで私は、フェアトレードという取り組みを知った。これは、発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引することによって、生産者の生活向上を支える仕組みである。私は実際に、高校生になったらフェアトレードを実行するという夢ができた。そうする事で貧困を削減できると考えるからだ。

持続可能な社会。私は学んだ責任があるから、世界に少しでも貢献したい。そして、世界中の人がしっかりと問題に向き合い、解決すると良いと考える。

「私が学んだこと」

苫小牧南高等学校　１年　佐々木ひなた

私が、この事業に参加して学んだ事は多くありますが、一番は国が違えば考え方も変わるという事を改めて知ることができた事です。

カンボジアに行く前、たくさんの勉強会を通して学びましたが、実際に行き、見るとまだ知らない事、人と話していても考え方の違いをはっきりとつきつけられるように感じました。

また、日本と違い、シェムリアップなどの郊外には信号が少なかったり、道の整備が不十分であったり、市場の環境があまり良くなかったりと、まだまだ支援が必要に見えますが、なんでもこちらが「してあげる」という考えは間違いなうえ、そんな環境でも毎日笑顔で暮らしているのを見ると、こういった話には正解も間違いも、はっきりとした善も悪もないのだと思いました。

報告会では、上手に言葉をまとまられず、伝えたい事の半分も伝えられなかっただけにとどまらず、少し違う感じに伝わってしまいました。私は、自分が感じ、学んだことを人に伝えることの難しさも学ぶことができました。他にも SDGｓについてや子ども食堂の事など札幌の方と話すことができて、とても良い体験をしたと思っています。

私は、この事業に参加することができて、本当に良かったと思っています。そして、この経験を忘れず、将来に活かしていこうと思います。

「研修での学び」

登別明日中等教育学校　３年　佐藤　伶音

僕が初めて海外に行ったのはこの研修が初めてです。初めての海外がカンボジアというのは中々貴重な体験だったと思います。それは、カンボジアという我々にとってなじみの薄い国ということや凄惨な歴史が起こったということにあります。この研修を通して自分は２つのことを学びました。

１つ目は、カンボジアに対する認識についてです。初めのころは、勝手に危ないや怖いなどというイメージを強く持っていました。実際に行く直前は不安でいっぱいでした。しかし、行ってみたらまったくそんなことはありませんでした。確かに、私たちが行ったのはカンボジアの中でも都心の方で、国内でも比較的安全な場所でしたが、カンボジアのイメージはがらりと変わりました。実際に行ってみないとわからないこともあることを再認識しました。

２つ目は平和についてです。カンボジアでは約 50 年前に内戦があり、私たちは内戦の博物館と刑務所の跡地に行きました。そこでは内戦時に実際に行われたことが見られました。目を背けたくなるものばかりで、暑いのに体が冷えるのを感じるほどです。それに同時に、平和の重要性を改めて感じました。何気なく生きているこの日本がどれだけ幸せなのかを痛感しました。

この研修がただの旅行にならず、しっかり学びがあるものになったと個人的に思います。それは、しっかりと事前学習を行えたからだと思います。時には、大変だなと思う時もありました。それでも自分にとって無駄なことは無かったです。そして、今回のこの経験を生かせるように、学校の SDGｓの活動をより頑張っていきたいと思います。カンボジアに行ったことは、とても楽しい思い出になり。本当に勉強になりました。こんな機会を作っていただいて本当にありがとうございました。

この研修がただの旅行にならず、しっかり学びがあるものになったと個人的に思います。それは、しっかりと事前学習を行えたからだと思います。時には、大変だなと思う時もありました。それでも自分にとって無駄なことは無かったです。そして、今回のこの経験を生かせるように、学校の SDGｓの活動をより頑張っていきたいと思います。カンボジアに行ったことは、とても楽しい思い出になり。本当に勉強になりました。こんな機会を作っていただいて本当にありがとうございました。

「無題」

登別明日中等教育学校　２年　高橋　風汰

僕はカンボジアに行って、ものすごく心に残ったことがあります。それは僕が日本とカンボジアの価値観の違いを理解せず、カンボジアに偏見を抱いていたことです。僕はカンボジアに行く前は自分が偏見を抱いているという自覚はありませんでした。しかし、実際に行ってみると、カンボジアがどれだけ素晴らしい国であるかが分かりました。

いきなりですが、虫がついていた食べ物を食べると聞いてどう感じますか。僕はきたない、食べたくないでした。たぶん日本人はそう思うでしょう。しかし、カンボジアの人たちはそれを気にせず食べていました。それは虫に対する価値観の違いでしょう。日本では虫はきたないという偏見が強いため、農薬を用いて虫がつかないようにしています。もちろん農薬は人の体に害を及ぼします。さらに農薬を使う分その食べ物自体の価格が上がります。ではなぜ私たちは虫に対する偏見がここまで強くなったのでしょうか。それは日本が便利を追求し続けたからです。便利になっていくことが悪いとは言っていません。もしかするとそれが幸せかもしれません。それも一つの価値観でしょう。ただ、便利を追求していくうちに徐々に自然から離れていき、ついには虫がきたないという偏見に変わっていったのです。そこで僕は気づきました。僕は便利を追求しない国は劣っていて、幸せでない国だと思っていました。それはただ自分の国の価値観を押し付けているだけでした。幸せかどうかは本人にしか分かりません。僕はこれにより互いの価値観を理解し合うようになりました。

そんなカンボジアの研修旅行で僕はたくさんの人と楽しくコミュニケーションしました。その人たちの中で今でも覚えている外国人がいます。ちなみにその人は中国に住んでいますが、日本のアニメにとても詳しいです。僕はアニメを見ません。僕は中国人に「このアニメを知っているかい」などと聞かれましたが、全て分かりませんでした。そして、日本に帰ってきて初めてアニメが日本の文化であることが分かりました。今自分が中国人から日本の文化を教えてもらっていたと気づくと、とても自分が情け無いです。

このように僕はこの事業でたくさんのことを学びました。そんな中、二つ反省したことがあります。一つは自国の価値観を基準にして幸せかどうかを判断していたこと、二つ目は自国の文化を知らなかったことです。この二つを大人になる前に知れて、こども国際交流事業に関わってくれた人たちにとても感謝しています。これからも今回学んだことを踏まえ自分の道を進んでいきたいと思います。

「カンボジアに行って感じたこと」

苫小牧南高等学校　３年　田鎖　彩也夏

突然ですが皆さん、カンボジアと聞くとどのようなことを想像しますか。私は実際にカンボジアに行くまでは地雷がたくさん埋まっていて危険、怖いというイメージを持っていました。しかし、実際は私の考えていたイメージとは逆でした。

首都のプノンペンでは道が整えられていました。赤土がむき出しの場所はなく、信号機があり、車の通りも多かったです。一方首都から離れたシェムリアップでは赤土がむき出しで整えられておらず、ボコボコした道が多かったです。ですが私が想像していたような地雷についての注意をうながすような看板などはなく、安全に道を歩くことができました。

私たちはヴィラという宿泊施設の方と現地の中学生と一緒に昼食作りをしました。鶏を捌いたり、コショウやチリをすりつぶしたり、日本ではめったにできないような体験をしました。また、そこではカンボジアの人々の暖かさにふれました。

他にも小学校に行って日本語の授業をさせてもらったりアンコールワットやアンコールトムを見学したり、ただの旅行では体験できなかったことを書ききれないほど体験してきました。

行く前と帰ってきてからの自分は少し価値観や考え方が少し変わった気がしました。漠然としていた将来像もはっきりと決まっていたり、発展途上国と先進国の関係やチャリティー活動にも興味を持つようになったりしました。私は将来、発展途上国で活動したいと考えています。そのためにはもっとたくさんの知識が必要ですが、それをのりこえられるよう努力していきたいと思います。百聞は一見にしかずという言葉があるように実際に体験しないとわからないこともあります。ぜひ興味を持ったら自分で行ってみてはどうでしょうか。

「貧困のない未来へ」

苫小牧市立光洋中学校　２年　長橋　柚奈

私は昨年の夏、「苫小牧市こども国際交流事業」に参加しました。
カンボジアを訪問する前の学習会では、世界一大きな授業を受けたり、世界中を旅する有坂さんにSDGｓの話を聞いたりしました。

国連はSDGｓの目標の一つに「貧困をなくす」ことをあげています。
貧困をなくすために必用なことはその地で十分な教育を実施し、人々の知識を広げることだと思います。日本からは橋の建設や市営バスを寄付し、支援しています。支援するといっても、先進国に暮らす私たちには発展途上国の人々を下に見てはいけないのです。お互いが同じ土俵に立ち、共に未来を考えることで、問題の解決が見えてくると思います。

貧困をなくすために私ができることは、私がカンボジアで見て、感じたことを多くの人に伝えることだと思います。

そして、普段の生活の中で食べ物を残さないこと、物を大切にすること、それだけでも貧困をなくすことにつながっていくと思います。

訪問先の小学校では、折り紙やけん玉で交流をしました。言葉が通じなくても、身振りや手ぶりでとても楽しい時間を過ごしました。カンボジアの人たちは笑顔が多く、とても親切で、こちらも温かな気持ちになりました。その笑顔がこの先もずっと続くように、周囲への働きかけを続けていきたいです。

「幸せ」

苫小牧市立緑陵中学校　２年　二瓶　宝來

「カンボジアは怖いところ」「危ないところ。」カンボジアに行く前の私は、心のどこかで、そう感じずにはいられませんでした。日本よりも貧しくて、私たちよりも不幸せなところ。

7 月 26 日から 31 日までのカンボジア訪問の中で、私達はカンボジアの小学校に行きました。日本とは全く違う校舎、授業時間、環境の中で、楽しそうに過ごすカンボジアの子ども達。授業をしていたら教室に野犬が普通に入ってきたり、平気で遅刻して入って来る子どもがいたり。私達の通う学校とは正反対で想像もつかないような学校の様子の中で何よりも印象深いのは「みんなが笑顔」だったことです。

私から見たら足りないものだらけの教室の中で満面の笑みをうかべる子ども達。その笑顔は小学生達だけでなく、カンボジアの人達みんなが向けてくれます。その笑顔を見ると「物質的には足りていない。でもカンボジアの人はみんな幸せそう」と感じるようになりました。

カンボジアには「貧困」という問題があります。物が足りていなくて、生活が大変なところもたくさんあります。それは私にとって幸せとはいえませんでした。でも、カンボジアの子達は、それが「普通」で、「当たり前」で、その生活が幸せであるということに、カンボジアの人達の笑顔で気づかされました。

日本にいると幸せの基準がどこか、「物があること」になりがちで、物がなくても十分に感じられる幸せが見えなくなっているのではないかと思います。「怖い」「危ない」「貧しい」と思い込んでいたカンボジアは行ってみると正反対で、人は温かく、笑顔があふれる国で、物がないことなど、気に留めることではありませんでした。

笑顔あふれるカンボジア。私もカンボジアの人達のように、小さなことを幸せと感じられる人になりたいと思います。

「カンボジア感想文」

苫小牧市立緑陵中学校１年　三浦　太陽

僕がカンボジアに行って思ったことは、場所ごとの発展度などの差がとても大きいということです。僕達はまずシェムリアップで数日を過ごし、その後プノンペンに行きました。プノンペンの空港の外を見ると想像以上に都会化が進み、日本と比べてもとても小さな国なのに圧倒的な差があることにおどろきました。しかし、その街並は中国＋韓国の進出によるもので、仕事をするのもカンボジア人ではなく、カンボジアの人々にとってはあまり関わりのないものたちだとガイドの人から聞きました。これは活動報告会でも述べましたが、他国にたよりきった発展で本当に良いのだろうか？カンボジアの市民は？と考えてしまいます。自国の力で発展できていないことが多いというのが、カンボジアだけでなく発展途上国にある一つの課題だと思います。これがカンボジアに行って僕が一番よく考えたことです。

他にはやはり、キリングフィールドやトゥールスレン博物館がとても心に残っています。僕はこの事業に参加し、カンボジアについて学ぶまでポルポト政権の時代のことは知りませんでした。あまり知らなかったからこそ、実際に行って見てきたもの、学んできたことの衝撃はとても大きなものでした。僕はこのことに対して、ポルポトが悪かったわけではなく、環境が悪かったのではないかと思いました。これについて活動報告会の座談会で述べましたが、ある程度恵まれた環境にいた人達は偏見が強く頭に刻まれてしまう。そして、それが変わることのない意志となってしまう。ポルポトがその典型的な例で、さらに権力と従う人達がいたことでこの様な事が起こってしまったのではないかと思いました。このことから、悪人を取り締まるよりも環境を整えることが一番大切なのではないかという考えを持つようになりました。これらのことが、僕がカンボジアに行って強く心に残ったこと、よく考えてみる様になったことです。

「世界に目をむけてみて」

立命館慶祥中学校　３年　若松　遼

今年度の国際交流事業は、やはりチャレンジが多く、それに合わせて私もいろいろな発見があった。まず、プライベートで発展途上国に行くこと自体まずない上、未来の地球を見据えていくこともないだろう。

今年の国際交流事業は、近年謳われているSDGｓを考える一環として、カンボジアに派遣された。そこでの生活は日本とは大きく違った。派遣中の日程でアンコールワットに行くことになった。日の出前に出発したため、朝、アンコールワットで見る日の出は壮観だった。カンボジア派遣で経験してきたことが、必ず自分の中で糧になっている。カンボジアに行かなければ、未舗装の道路沿いで生きたままの動物を並べる市場や、学校で日本語を学ぶ子供たちを見、クメール・ルージュの大量虐殺の歴史を「肌で」感じることはなかっただろう。

帰国後、私たちは自分たちが経験したことを伝えるべく報告会を開催した。みんな思い思いの「経験」を語っていた。私はカンボジアの歴史というテーマで、クメール・ルージュの歴史についてまとめたスライドを発表した。人類の永遠のテーマである「世界平和」について、過去の負の遺産を紹介できた。SDGｓについて考えるきっかけを作り、また私たちの活動を知ってもらえるいい機会になったと思う。

今回の国際交流事業で初めて文化も気候も全く違う世界に飛び込んでみて、改めて「世界は広いんだなぁ」と感じることができた。そして今、「どうしたらみんなが平等になれるのか」を問う時代に、「じゃあ人々は今どうなっているのか」を知ることができた。

2019 年度苫小牧市こども国際交流事業
こども国際交流クラブ活動報告書

2020 年３月発行

特定非営利活動法人ワーカーズコープ　苫小牧まちづくり地域福祉事業所
のぞみコミュニティセンター
〒059-1272　苫小牧市のぞみ町１丁目２番５号
TEL　0144-68-6711
Mail　kokusaikouryuu@roukyou.gr.jp
ブログ　http://toma-kodomokokusai.sblo.jp/